



新公会
本間 保昭

将来を見据えたまちの姿について

質問 将来を見据えたまちの姿を描く必要性について、中心市街地において描く要素となる施設などは何か伺う。

答弁 現在、栄町3―3地区をはじめ、駅前広場の再整備事業が行われていますが、引き続き、空き店舗や空きビル・遊休地などの開発を誘導するような環境づくりに向け、所有者をはじめ利害関係者との調整を進める新たな専門部署を設ける予定で考えており、その中で行政としてできる役割や市民が求める中心市街地に必要な機能、さらには、財政状況などを総合的に検討していきます。

農業を起点とした元気な地域産業づくりについて

質問 農業分野への企業参入について、実績と今後の課題および今後の取り組みについて伺う。

答弁 平成28年度の実績としては、

化粧品メーカーのハーバー研究所と包括連携協定を交わし、丸加高原においてラベンダーの試験栽培に取り組み始めました。29年度に向けて他の作物への拡大や、さらには農業生産法人化に向けた協議も始まったところです。そのほかにも夕張ツムラの生薬栽培やマツオの畜産事業への参入など、農業分野への企業参入が進み始めていますし、市外の企業から農業参入に向けた問い合わせもいただいているところですが、現段階では企業名を明かせませんが、交渉中の案件もあり、今後可能性のある分野と考えています。

質問 地域資源を活用した特産品開発の現状と、取り組んでいる具体的な案件および今後取り上げようとする素材について伺う。

答弁 これまで、菜の花まつりなど市外から多くの方が訪れる機会に、お土産となる商品が少ないという声をいただいていることから、現在、地域資源を活用したお土産品づくりとして、滝川産米を原料とした米菓子の開発を行っています。開発中の商品については、先日開催された冬まつり会場におい

てもテスト販売を行い、さまざまな意見をいただいたので商品に反映させたいと考えています。

今後についても、米やなたね油、りんごなどの地域資源を活用した商品化に努めるとともに、市内事業者の特産品開発に向けた取り組みについても支援していきます。

賑わいのある中心市街地の活性化について

質問 滝川版マルシェについて、市長が考えているイメージと設置目標年次について伺う。

答弁 滝川版マルシェについては、昨年11月、地域産品等を共同で販売する拠点の設置により、商品展開力や販売力の向上等を図ることを目的とした全国商工会議所連合会の「共同販売拠点による地域産品等の販路開拓支援事業」の公募を受けて、滝川商工会議所が申請者となり、市が支援する形で応募した経緯があります。しかし、残念ながら採択に至らなかったことから、いったん白紙に戻し、今後は栄町3―3地区再開発との連動性を鑑みながら、滝川商工会議所に設置される検討組織において、

官民連携により実現の可能性を探っていきます。

道徳教育について

質問 本市独自の道徳教育推進事業について、SNSやインターネットなど多様化し変化する社会的課題に向けた指導について伺う。

答弁 これからの時代を生きる子どもたちが、インターネットに関わる諸問題などの社会的課題について、正しい知識と倫理観を持ち、向き合っていくための素地を育むことは、学校教育に求められる大切な観点と考えます。学校では、技術家庭科などの各教科や学活、総合的な学習の時間などで情報モラル教育を推進しているところであり、道徳の授業につきましても、学習指導要領において情報モラル教育の充実や身近な社会的課題について取り扱うこととされており、それらに関わる指導が求められています。ご指摘の点は非常に大切なことと認識しており、子どもを取り巻く社会環境の変化を捉え、子どもに考えさせるべき新たな課題について積極的に取り組もうよう指導していきます。